

二〇二三年度学位授与式 学長式辞

卒業生のみなさん、本日はご卒業おめでとうございます。ご父母、保証人の皆様もお慶びのことと存じます。心よりお祝い申し上げます。

二〇二〇年はじめより猛威を振るった新型コロナウイルス感染症のもと、みなさんの学修は大きな制約を受け、また日々の生活にも大きな困難があったことと思います。それを乗り越えられて本日のご卒業を迎えられたみなさんの努力に心から敬意を表します。

詩人の茨木の子さんは「わたしが一番きれいだったとき」という詩のなかで、戦争によって痛めつけられた青春期を描きました。冒頭を引用します。

わたしが一番きれいだったとき

街々はがらがら崩れていって

とんでもないところから

青空なんか見えたりした

わたしが一番きれいだったとき

まわりの人達が沢山死んだ

工場で 海で 名もない島で

わたしはおしゃれのきっかけを落してしまった

ここまでではなかったにせよ、青春期のもっとも充実した数年間を寂しい思いをして過ごした方は多かったのではなかったかと思えます。私も教職員もオンライン授業を急遽導入し、慣れない授業運営に四苦八苦しながらも何とかみなさんの学修を成立させようと頑張ってきましたが、それでもいろいろと至らないこともあったかと思えます。学長として心よりお詫び申し上げます。二〇二〇年度は入学式が中止になり、代替の式を一年後に行うこととなりました。そのことを喜んでくださった方も多かったのですが、やはりご入学と同時に行えなかったこと、ご父母、保証人の皆様を学内に招くことができなかったことは心残りでした。この度の学位授与式にはモニター会場であるとはいえ、学内にお招きできたことを嬉しく思います。

学長に就任以来、多くの卒業生の方とお話する機会に恵まれました。印象に残るお話が大変多かったのですが、ここではお二人のお話を紹介したいと思います。昨年十一月にM B T丸の内ビジネス研修十周年の記念行事がありました。その際に現在外資系のコンサルテイングファームで働くM B T修了者の方から伺ったのですが、M B Tは勿論のこと、大学で勉強した日本古典文学の勉強が今のお仕事にとっても役に立っているとのこと、意外な結びつきであったため、そのわけを伺いました。その方がおっしゃるには、先行研究を読み、テキストを読んで証拠を集め、それをもとに考えをまとめ、さらに文章や口頭の発表の

かたちにしていく作業が現在のお仕事と本質的に変わらないということでした。いずれの学部学科を卒業される方もそれぞれの分野で学問の方法論をしっかりと学ばれていると思います。この方のようにお仕事の世界でそのエッセンスを是非生かしていただければと思います。もうおひとりは一九七五年に本学の法学部を卒業された集英社の堀内丸恵会長のお話です。堀内さんは『週刊少年ジャンプ』の編集者としても大変な活躍をなされた方で、その時代のエピソードを大変興味深く伺いました。その際に、現場を離れて管理部門に行かれて寂しくありませんでしたか、とお尋ねしたのですが、堀内さんのお返事は、作家さんを支えて優れた作品を生み出すのも経営陣を支えて会社を廻していくのもどちらも人をサポートして何かを作り出すクリエイティブな仕事には変わりないので、どちらも楽しかったということでした。人間にはアナロジー、類推の能力が備わっており、あるところで得た知見、経験を別のところで生かしていけるということをお二人のお話から実感させていただきました。本学で修めた学問、あるいは課外活動で得た経験、それは今後のみなさんのお仕事でも生かれますし、さらに若い頃にお仕事で得た経験は、さらにその先の経験で生きることに思います。皆さんが卒業後に社会でご活躍になり、また、それが後に続く後輩たちの励みとなることを願っております。どうぞ頑張ってください。

さきほど冒頭を引用した茨木のり子さんの「わたしが一番きれいだったとき」という詩は次のように結ばれています。

わたしが一番きれいだったとき
わたしはとてもふしあわせ
わたしはとてもとんちんかん
わたしはめっぼうさびしかった

だから決めた できれば長生きすることに
年とってから凄く美しい絵を描いた
フランスのルオー爺さんのように
ね

みなさんが今後の長い人生を幸い多く歩んでいかれることを心より祈願しております。

二〇二四年三月一九日